

けやき

心も体も元気な岡村っ子

おもいやりをもち、
かがやく自分を求めて、
むちゅうになって共に学び
みらいを創っていく子

6 月号

横浜市立岡村小学校・学校だより R4.5.31 学校ホームページURL <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okamura/>

ゆっくり どうぞ

副校長 船山 道太

新しい生活様式は、子どもたちの新しい生活習慣となり、一つの形を成しています。一方
向を向いて、黙食する給食の時間は、私たち教職員や子どもたちにとって、すでに当たり前
のことになっています。それ以外の時間については、概ねマスクを着用しています。それが、
夏が近づきますと、マスクを着用することにより健康被害を引き起こす可能性があることで、
マスクを外すことを指導・推奨する場面が増えます。子どもたちが学校生活をより安全に過
ごすため、保護者様にもご理解をお願いいたします。コロナ禍で3度目の夏を迎えます。

横浜市立学校 熱中症対策ガイドライン 令和4年5月改訂版には、「熱中症も命に関わ
る危険があることを踏まえ、熱中症への対策を優先させてください」とあります。また、「体育
の授業においては、マスクの着用は必要ありません」とあります。しかし、感染症罹患のリス
クがないわけではないですから、「ただし、十分な身体的な距離がとれない状況で、十分な呼吸ができなくなるリスクや熱
中症になるリスクがない場合には、マスクを着用しましょう」と続きます。運動会では、例えば、徒競走を走る、また走り終え
て、呼吸が整うまで、マスクを外させたい、また、等賞旗の後ろに整列している間、子どもたちは声を出して仲間を応援し
たくなるであろう、そのために、十分な距離を確保できるように、工夫をしよう。演技の声出し場面も気を遣うところでした。
こうして、教職員と子どもたちが、熱中症対策を優先させて、感染症対策にも取り組んでまいりました。

また、登下校についても、「気温や熱中症指数が高い中でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高くなるおそれがあり
ます」とあります。ここでも人との十分な距離を確保し、会話を控えるという意識をもって、マスクを外す、止まって水分を補
給するなどして、安全に登下校できるよう、保護者様に重ねてご協力をお願いいたします。

今年度もなんとか運動会を開催させていただきましたこと、感謝しています。自分事ですが、運動会では最下位以外をと
ったことはありません。毎年です。たぶん、ただの一度も誰かの前を走ることはなかったと思います。だからといって、長距
離が少しマシだったかという、そうでもありませんでした。これを理由に運動から遠ざかるかという、不思議とそうではな
かったんです。いい意味で、先のことは分からないものです。

私たち大人が、そうだったように、子どもたちも、ゆっくりゆっくり大きくなりますね。その中で、けっして手を抜いているわ
けでもないけれど、いい結果が得られないということがあります。学習もそうですね。私の場合ですと国語の教科書の音読
ができるようになったのは、だいぶ後になってからです。練習してもなかなか身につくことがない。それでも、今は、不思議と
読めていて文字と幸せな関係を築けています。忘れかけていますが、相当な時間をかけて、ゆっくり成長させていただ
いたんだと。それが私などが大人になりますと、これまでのことを忘れて今自分ができていることは子どももすぐにできるよう
なるだろうと急かしてしまし、早く身に付けさせようとしてしまいます。内容にもよりますが、気を付けていきたいものです。

エステティシヤンの今野華都子さんが「まゆみ」の法則という話をしていましたので、最後に紹介します。大人もかつては、
未熟でたいへん長いこと待ってもらったのだから、今度は子どもや仲間ができるようになるまで、ゆっくり待とうではないかと。
また、誰かがしているのを見たり聞いたりして自分が被害者のように思えるようなことを、自分もだれかに同じようなことをし
ていたかもしれない、人を許して、そんな自分も許そうではないかと。最後に、「認める」です。子どもが自分で自分のよさ
に気づくことって、難しいし、分からないだろうと。ですから、よその人に、よさを認めてもらって気づいていく。子どもたちの
よさを見つけて、認める、伝える。ゆっくり どんどん。

ここ岡村で、自分のよさに気づけた子どもが、大人になって可能性を広げて生きていく。そんな人を一人でも多く、私た
ちは 送り出していきたいです。ゆっくり、どうぞと。

